

●歴史・文化、自然再生ワーキンググループ

キーワード

歴史文化 自然環境 景観 アユモドキ

歴史・文化、自然再生 WG とは

歴史文化、自然再生 WG は歴史的河川施設である内膳堤の復元計画、多様な生物の生息環境である水辺の保全再生、その他、歴史・文化、自然再生に係る取り組みについて検討しているグループです。これまでに下内膳の復元計画の検討や亀の甲に関する調査、アユモドキの新たな産卵場所にもなり得る多様な生物の生息環境創出の実現方法について検討しています。

歴史・文化、自然再生 WG の検討内容

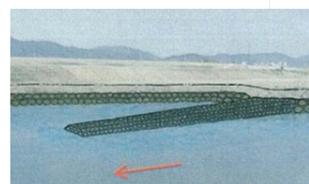
●対象エリア



●主な検討内容

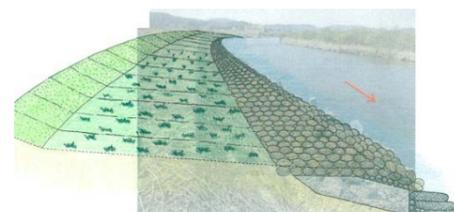
●内膳堤の復元計画

・上内膳は保全のための補修を行い、下内膳については、当時の構造や目的を調査し復元計画を策定しました。亀の甲については文献などにより、いつ頃なくなったのかを調査しています。



●水辺の保全再生

・川に近づきやすく、動植物の生息・生育空間に配慮した多孔質な環境を形成する水際の整備計画を策定し、一部工事実施しました。



●多様な生物の生息環境づくり

・保津川左岸側最下流部において、アユモドキを含む多様な生物が生息できる環境づくりを検討しています。



開催経過と会議のまとめ

●平成 23 年度

第1回 (10月28日)

- 河川利用にあたっての基本的事項
- 水際の現状と課題について
- 歴史・文化、自然再生 WG での検討事項
- 次回以降の進め方

第1回WG長会議(12月26日)

第2回 (3月6日)

- 前回の振り返り
- 具体的な取り組み(案)について
- 内膳堤の復元について
- 今後の進め方について

●平成 24 年度

第3回 (8月22日)

- 前回の振り返り
- 新たな生息環境の創出について
- 下内膳堤の復元について
- 今後の進め方について

第4回 (11月27日)

- これまでの経緯と今後の進め方
- 基本計画(案)について
- 地域主導型公共事業について
- 意見交換 (WS形式)

- 亀の甲については、いつ頃なくなったかを調査するとともに、亀の甲についての立て看板やモニュメントについても検討していく
- 左岸側最下流部の湿地については、アユモドキが遡上できる自然環境を引き続き検討し、他のWGと情報を共有する
- 勾配の水際整備については、増水時に湿地が形成されやすい環境を検討する

第2回WG長会議(平成24年12月27日)

第3回WG長会議(平成25年2月13日) (作業部会)

今後の予定

水辺の保全再生については、平成24年度に一部工事を実施し、状況を見ながら今後も実施予定。また、内膳堤の復元計画については、WGで出された意見をふまえて詳細設計を進めます。亀の甲については文献調査を引き続き行い、多様な生物の生息環境づくりについては、WGでの意見を踏まえて今後も検討を続けていきます。

●内膳堤などの復元計画

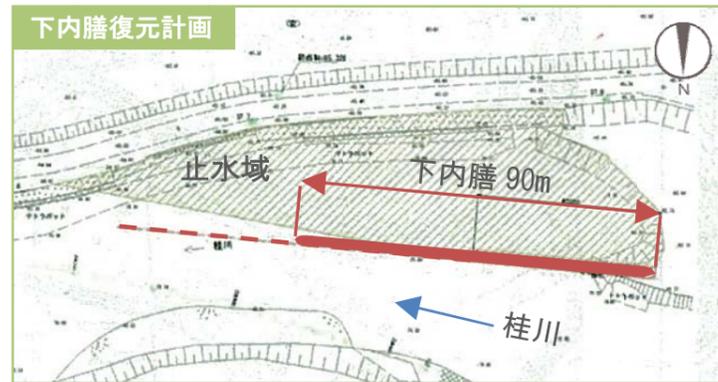
●上内膳の状況

- ・上内膳や下内膳は中小の洪水時に河岸の侵食を洪水から防ぐために作られたと考えられています。
- ・上内膳はコンクリートで補強されており、当時の築造当時の姿を確認することができます。
- ・今後は保全のための補修を検討しています。



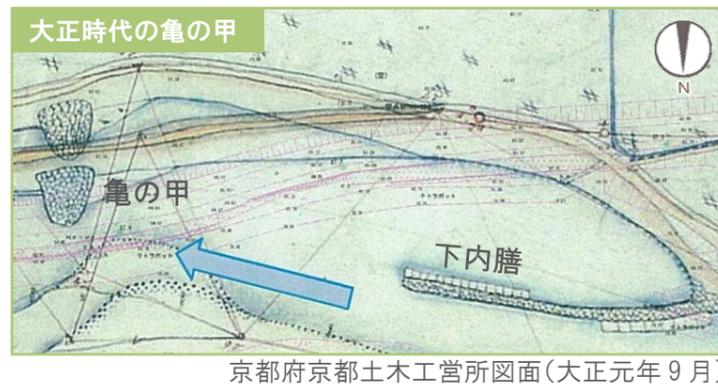
●下内膳の復元計画

- ・下内膳の延長は約 90m だったと文献に記載されていますが、復元に当たっては、少しずつ延長を延ばし、周辺環境への影響を考慮しながら施工する予定です。



●亀の甲についての検討状況

- ・亀の甲は下内膳で対応できない洪水から河岸の侵食を防ぐ役割を持っていたと考えられています。
- ・文献調査や市民の昔話から亀の甲が存在していたことが分かっており、今後はいつ頃なくなったのかを文献調査で明らかにしていきます。



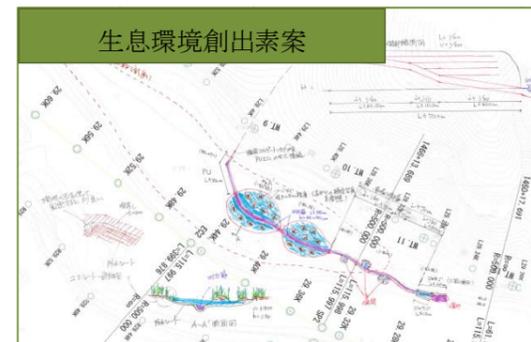
●多様な生物の生息環境づくり

●対象エリアの現状

- ・検討対象エリアは左岸側の最下流部に位置する高水敷に位置します。

●検討状況

- ・アユモドキの生育環境の場として、谷水が水路、皿状の池を経て桂川本川につながるような環境を検討しています。
- ・岡山県瓜生川の取り組みから、甘土などの濁りが生育環境の創出に有効であることが分かり、産卵時期に甘土を投入することも今後実験的に検討することになっています。
- ・そのほか、当エリア以外の水辺についても、水溜りができるような高低差のある凸凹の地形を設けることを検討していきます。



●水辺の保全再生

